

第8回函館市財政再建推進会議 会議録（概要）

- 日 時 平成25年10月29日（火） 18:00～
■場 所 市役所8階 第1会議室
■出席委員 阿部委員，奥平委員，佐藤委員，寺井委員

【会議概要】

- | | |
|-----------------------|---|
| 1 開 会 | |
| 2 総務部長
挨拶 | （委員に対し，総務部長挨拶） |
| 3 委員および
事務局紹介 | （財政再建推進会議委員および事務局をそれぞれ紹介） |
| 4 会議の概要
説明 | （委員に対し，本会議設置の趣旨，目的等について行政改革課長より説明） |
| 5 委員長，
副委員長の
互選 | （委員長には奥平委員，副委員長には佐藤委員が互選される。） |
| 6 資料の説明 | （配付資料に基づき，事務局が説明）
① 函館市行財政改革プラン2012の進捗状況について（行政改革課長）
② 函館市の財政状況について（財政課長） |
| 7 質疑応答・
意見交換等 | |
| 佐藤副委員長 | 現時点での，基金の残高を教えてほしい。 |
| 財政課長 | 財源調整に使用できる基金として，財政調整基金と減債基金があるが，現時点において，平成25年度末には，2つの基金の合計で約17億円になると見込んでいる。 |
| 奥平委員長 | 各取り組みの進捗状況について，A，B，C，Dという4つの評価区分になっているが，どういう基準で評価しているのか教えてほしい。
取り組みによっては，2年で終わらせる計画のもの，5年をかけて取り組むものと色々あると思うが，スタートしたばかりの取り組みについてAだと |

かBだとか、評価してしまってもいいのかという率直な疑問がある。

行政改革課長

各取り組み項目には、各年度ごとに作業工程と対策額を定めているが、基本的には、各年度ごとに設定している対策額や収納率など、数値的指標をクリアしたかどうかだけに着目するのではなく、各年度ごとの作業工程に対する取り組み状況に重点を置いた評価を行っている。

また、複数年度にわたる取り組みについては、計画期間全体も見通したなかで、過程も含めた総合的な観点での進捗評価となるよう留意している。

寺井委員

関連して伺いたい。これらA、B、C、Dを判断する評価者は誰か。

行政改革課長

各所管部局が自己評価を行ったものを総務部で集約し、評価基準や評価理由等について全体的な調整を行ったうえで、市長、副市長の意見を聞き、最終的な評価として取りまとめたものである。

寺井委員

平成25年度当初予算における対策額の内訳をみると、「選択と集中による財政改革」においては、当初計画よりも上回る効果額が出ている。

事務局からは、事業の抜本的な見直し等によるものと説明があったが、それらを考慮すると、もう少し高い評価が多くあっても良かったのではないかと思うがいかがか。

行政改革課長

評価にあたっては、あくまでも当該年度の取り組み過程を重視したものであり、効果額という数値的な結果だけで判断したものではない。

阿部委員

例えば、評価基準書といったものは作成しているか。

行政改革課長

評価の方法について細部まで定めた評価基準書といったものは作成していないが、基本的には、各年度ごとに設定している作業工程に対し、計画どおりに取り組んだ場合にはB、計画を上回る取り組みを行った場合にはA、計画を下回る取り組みだった場合にはCという評価をした。

総務部長

本プランは、平成24年12月に策定したものであり、平成24年度の各作業工程については、既に取り組みが進められているものをベースに作成した事例が多いことから、進捗評価では「計画どおり」のB評価が多くなっている。

例えば、平成25年度に計画した取り組みを、前倒しして平成24年度に実施したとか、計画では想定しなかった新たな対策を実施した等の事例があれば、「計画を上回った」ということでA評価できると思っている。

財政課長

財政効果が計画を上回っていることについては、プランに掲載していなくても、事業仕分けや内部仕分け等によって見直しを行った事業もあるという

ことであり、そうした効果額についても計上されているということを補足させていただきたい。

佐藤副委員長

基金の残高などからも、依然として厳しい財政状況にあり、今後の交付税の見通しや、消費増税の影響が不透明である点なども不安材料として懸念される。

プランに基づく財政再建への取り組み自体は、一生懸命に進められていると感じられるので、次年度以降の取り組みについても期待したい。

財政課長

消費税についての影響は、まず増税により、歳入面では地方消費税交付金が増える。しかし、そのうち75%相当額は、交付税において減額されることから、実質的な自治体歳入は、残りの25%相当額ということになる。

一方、歳出面においては、工事請負費や委託料など、すべからく3%の増税の影響を受ける。消費税増税にかかる収入と支出の影響を差し引きすると、支出の方が増えるのではないかと考えている。

本来、こうした財政需要の増要素は交付税で負担されるべきであるが、現在、国では交付税総額の減額について議論しており、現段階においては、不安要素のほうが大きいと認識している。

寺井委員

参考までに聞きたいのだが、平成24年度決算の概要を見ると、市税収入が予算よりも増えている。その主たる要因は何か。

財政課長

ご指摘のとおり、市税収入の決算額は、最終予算に対し約2億8千万円ほど上回ったところであり、これは、個人・法人の地方税が当初予定よりも若干多くなったためである。

しかし、基本的な考え方として、我々が予算を組む際には、歳入は抑え気味に、歳出は高めに、ということである意味、一定の安全面を考慮した予算編成を行っている。

今回、予算対比で増となったのは、総合的にみて景気の影響がどうこうということではなく、元々堅めの予算を組んでいたということでご理解いただければ良いと思う。

寺井委員

これら、市の財政状況に関する説明資料を見ていると、ある程度市民も痛みを伴わなければならないのかなと感じるところが多い。こうした中、私の認識が間違っていたら申し訳ないが、財源不足という明らかな問題があって、住民税等の税収で少しカバーしようということは考えられないのか。

財政課長

税については、法律で決まっている税率がある。一方、国から地方への税源移譲も進んではいるが、函館市の場合、それに見合うだけの経済状況にはまだなっていないため、実際の税収は思ったように伸びてこないという傾向にある。

奥平委員長

私は、評価基準等について、もう少し検討する余地があるのではないかと思う。

というのは、平成24年度の評価はBが大半を占めており、Aが一つもない。詳細な資料を見るとわかるとおり、実際には、大変頑張っておられるわけだが、単純にこれだけを見ると、市民は「市役所は全く努力をしていない」という印象を受けるかもしれない。

それから、先ほども質問したが、取り組み内容によっては、2年で完了するものもあれば、5年で完了するものもある。経過を含めた総合評価というお話もあったが、どの時点でどのような評価を下すのかといった点についても、少しはっきりしない部分があるのかなと思う。

いずれにしても、こうした行革の取り組みには、スピード感が求められていると思うので、総務部長もおっしゃったが、取り組みの前倒しを良しとする姿勢をもって、A評価が多くなるよう今後とも期待したい。

寺井委員

例えば、平成25年度におけるプラン上の財政計画と当初予算との対比を見ると、対策額では、トータルで約4億円ほど計画との乖離が生じているわけで、その分については、後年次に何とかして取り返していかなければならないと、それに加えて、今後は電気料金の値上げや消費税増税の影響などもあり、財源不足がより拡大していく可能性もあるという中で、計画と実績との乖離が今以上に広がっていく可能性もあるわけだが、現時点で、その乖離がどこまで広がれば、途中でプラン全体の練り直しを行うだとか、または、今までメスを入れられなかった部分にも切り込んだ新たな事業仕分けの実施に踏み切るだとか、その辺りの考え方や見通しがあればお聞かせ願いたい。

総務部長

計画と実績との乖離が大きくなったときにどうするのかということで、現時点で、その乖離がいくらになればという具体的な額について申し上げることはできないが、これまでも数次にわたり行財政改革を進めてきた中で、計画期間の途中で交付税が大きく割り込んだ時期があった。その際には、当然、計画以上の取り組みが必要ということで、計画期間の終了を待たずに、新たな計画を策定して、取り組みを進めたこともある。

このように、その時々状況によっては、計画の大きな見直しということも必要になる場合があるかもしれないが、現時点においては、今のプランを着実に、さらにスピード感をもって達成していかなければならないと思っている。委員長もおっしゃったように、前倒しできるものは前倒ししてA評価が増えるように努力する、それが今の私どもの姿勢だと考えている。

寺井委員

その辺りについては、是非柔軟な姿勢で臨んでもらいたい。

佐藤副委員長

確かに、今後の財政的な不安要素なども考慮すると、平成28年度までの計画期間は少し厳しいのかもしれない。いずれにしても、早め早めの対応が

必要になるだろう。

奥平委員長

先ほど事業仕分けの話も出たが、これまでの取り組み成果を見ていると、その効果は明確に出ていると思う。今後も何年かに一回、集中的にやったほうがいいのではと感じた。これは第三者評価にもつながるわけで、今回のような内部評価と組み合わせることで、より効果的な手段になると思う。

佐藤副委員長

関連して伺いたいですが、補助金のあり方検討委員会の中で、今後は外部による第三者評価を行っていききたい旨の説明があったと思う。その辺りの進捗状況はどうなっているか。

財政課長

現在、市では、企画部・総務部・財務部の共管で、「事業評価制度」として、新たな仕組みを構築しようとしている。出来れば年度内に仕組みを構築し、来年度以降の早い時期から外部評価を実施していきたいと考えている。

今お話しがあった補助金についても、他の事業と同様に、その制度の中で外部評価をしていただく方向で、取り組みを進めている。

奥平委員長

そういったチェック体制や評価の仕組みを構築していくことはとても重要なことだと思う。今後とも、継続的な運用が図られるよう期待したい。

阿部委員

私は、こうした行財政改革の取り組みを、市がこれだけ頑張っているということを見て初めて知った。素直に大変嬉しいという気持ちである。

これまでも事業仕分け等に積極的に取り組んでこられたようであるが、街づくり全体として大切なことは、やはり自分の街をしっかりと見る、自分の目で、自分の足で、机を離れてしっかりと見るということが原点になると思うので、そうした姿勢を今後とも是非大事にして取り組んでいただきたいと思う。

奥平委員長

ここで、今後の会議の開催にかかる事務局の考え方を聞いておきたい。

行政改革課長

計画初年度となる平成24年度の取り組みについては、既に動き出していたものを掲載した事例が多く、評価も「計画どおり」のB評価が大半を占めていることから、今年度の会議開催は基本的に1回と考えているが、平成25年度以降の取り組みについては、AやCなど、進捗に差が出てくるのが想定される。

従って、進捗状況の報告としては、今年度と同様に年1回を基本と考えているが、その報告内容を見ていただいた上で、必要に応じて個々の取り組みにかかるご質問やご意見などは伺っていききたいと思う。

寺井委員

計画どおりと評価したものについては、本当にそうなのかどうか、計画を

下回ったものについては、どこに問題があるのかなど、掘り下げて見ていく必要があると思う。逆に結果を出したと、問題ないと胸を張れるものについてはしっかりとA評価をつけていただくと我々チェックする側の負担も減るので、その辺りの評価の仕方というのも、今後是非検討願いたい。

もう一つは、そのためにもある程度早めに資料を配付してほしいということ。全部で91項目の取り組みがあり、個々の取り組みを見ていったときに、場合によっては、担当部局に資料を提出してもらったり、会議の場で説明していただく必要性も出てくるかもしれない。そういった事前の質問や資料要求などの準備ができる十分な時間を委員に与えて欲しいと思う。

佐藤委員

同感である。そうした時間があれば、事業仕分けの対象になっていた取り組みについては、当時の議事録と突き合わせて確認することなどもできる。

寺井委員

事務局からの説明にもあったが、今年度はまだスタートしたばかりということで、全体的に順調に組みが進んでいると評価して良いと思うが、来年度以降は、大きく動いてくると考えられるので、それに対してプランの進捗を管理するこの会議として、どう対応していくかだと思う。

奥平委員長

それに対しては、臨機応変に何回か開催するという方法も考えたほうが良いのかと思う。事務局には、各委員から出された意見を参考に、今後検討願いたい。

それでは、他に委員からの発言もないようなので、本日のまとめに入りたい。

本日、報告を受けた「函館市行財政改革プラン2012」の取り組みについては、概ね順調に推移していると評価できると考える。

今後もプランに基づき、また、本日各委員から出された意見等も取り入れつつ、鋭意、取り組みを進めていただきたい。

私からは以上である。

総務部長

本日は大変貴重な時間をいただき、各委員には感謝申し上げます。

各委員からの貴重なご意見を踏まえながら、胸を張ってA評価をつけられるよう、今後の行財政改革に鋭意取り組んで参りたい。

また、今後の会議の運営方法や資料の配付時期等についても、改めてご相談させていただきながら進めていきたいと考えているので、よろしく願いたい。

本日はありがとうございました。

奥平委員長

これで、本日の会議を終了する。

8 閉 会

本日の会議録は、後日、委員の皆様の確認を得てから、市のHPで公表を
させていただきます。

本日はお疲れ様でした。